

# YAMAHA ELECTONE FESTIVAL 2022

## ソロ演奏部門 グランドファイナル 審査員コメント

各日の表彰式で、審査員各位から出場者の皆さんに向けて講評をお話いただきました。

より良い演奏をするためのアドバイスや、努力をたたえる言葉など、YEFに出場したすべての皆さんに向けたコメントをまとめてご紹介いたします。

### <全体を通じて>

- ・今回のステージを目指して頑張ってきたことは、本当に大きな大きな財産になる。このステージで演奏したことを自信にして、これからもエレクトーンや音楽の勉強を長く続けていってほしい。
- ・今回は海外出場者の皆さんが久しぶりにこのステージに登場し、演奏できたことをとても嬉しく思う。ワクワクしながら聴かせてもらった。

### 1日目（小学生高学年部門、中学生部門）

#### <自由曲演奏>

- ・皆さんまだ若いのに個性をしっかり持っている。音楽にとって自分の個性や世界観はとても大切なもの。より磨いていってほしい。
- ・生の楽器のピアノやピアノシモの弱い音が、どのようにホール全体の空気を振動させ音を伝えているか、ぜひ実際にオーケストラや吹奏楽の演奏会で確かめて、音色作りに反映していってほしい。
- ・例えばオーケストラの音楽でも、1拍目で全員がトゥッティというシチュエーションはさほど多くなく、絡み合ってお互いに力を渡し合いながら音楽が流れていく。小節の頭で必ず両手と足で音を出す必要があるか、この先の指導やアレンジ、創作活動の中で考えてみると、さらに素敵な音楽が生まれてくるのでは。
- ・自由曲の演奏のクオリティが年々上がってきている。技術、表現ともに安定感のある演奏が多く聴かれるようになった。勉強の成果がしっかり出ていると思う。ぜひ自信を持ってほしい。

#### <課題演奏>

- ・約1か月という短い期間で本当によく仕上げられている。
- ・最初からあまりレジスト等を考えすぎず、なるべくシンプルなレジストでまずは弾いてみて、演奏を迫及していく中で足りないところ、もう少し欲しいところにレジストを追加していく、というように進めていくと、さらに自然で素敵な演奏になるのでは。
- ・楽譜や原曲を参考にして、どれだけ音楽を読み取るか、またそれを自分ならではの演奏表現にまとめあげるかが問われる。1曲に時間をかけて丁寧にさらうのももちろん大切だが、既成の楽譜や楽曲を、短いものでもいいのでたくさんこなしていく、その中で音楽のジャンルの幅を広げていく、ということを小学生高学年や中学生の皆さんにはこれからぜひ頑張ってもらいたい。

## 2日目（小学生低学年部門、一般部門）

- 例えばオーケストラサウンドなら、目をつぶるとそこでオーケストラが鳴っているような感覚に陥った。また身体全体で指先まで気持ちのこもった演奏をすると、音にそのまま表れることにも感動した。  
このコンクールが皆さんの成長につながっていくよう応援し、楽しみにしている。
- 演奏には「呼吸」が大切。休符のある演奏をした方や、息つきがあって、次の話（フレーズ）をききたくなるような演奏をした方がたくさんいて嬉しかった。場面転換する方法をもっと研究し、物語がスムーズに流れるような演奏を目指してこれからも頑張ってもらいたい。

### <小学生低学年部門>

- 小さな身体で大きなステージに堂々と立ち、本当に楽しそうにはつらつと演奏している姿に感動した。楽しい演奏をありがとう。
- コンクールに向けた練習をしながらも、普段は基本的なスケールの練習などもつまらないと思わずに続けていって、成長して行ってほしい。
- これから年齢が上がっていくと、課題演奏が出てくるが、そこで差が出てくることを考えると、ぜひ今のうちにしっかりソルフェージュの勉強をしてほしい。楽譜から音楽を読み取る力が大事になってくる。またさまざまなジャンルの音楽を聴いたり弾いたりして、音楽表現の幅を広げて行ってほしい。とても期待している。

### <一般部門>

- エレクトーンはオーケストラや吹奏楽の音を真似るだけでなく、もっと可能性のあるいろんな音を出せる楽器。例えば自然の中で、風の音や水の流れる音、鳥の鳴き声など、いろんな音を聴いて、ますます感性を磨き、ご自身の作品に取り入れて行ってほしい。
- オリジナル曲に関して、右手でメロディー、左手でコード、足鍵盤でベースパートを弾くことが多いが、曲の最後までその体勢が続くという方が多かった。例えば低音にメロディーが来たり、高音域だけ鳴っている、というような音域の工夫がもう少しあると立体的に楽しめる作品になるのでは。
- いろいろなアイデアにあふれていてとても楽しかった一方で、展開をもっと聴いてほしいのにクライマックスが来てしまったというような印象の曲もみられた。テーマの規模感をどれくらいにするといいのか、制限時間内で過不足なく自分のやりたいことが伝えられるような曲作りを考えられるといい。
- 最後まで聴き終わった瞬間、こういうメロディーがあったな、こういう音型が並んでいたなという印象が薄く、和音進行だけをたくさん聴いたなという印象で終わってしまった作品もあった。聴く人の心に残る旋律、音型をもう少し研究されると良いのでは。
- 自分の得意な分野で始まるものの、例えば中間部でリズムなどが入ってくるとその個性が薄れてしまう方もみられた。最後までその人らしいアレンジができると良い。
- シンプルなメロディーであっても、聴く人の心にスッと入ってくることがある。人に伝わる音楽とはどういうことかを考えながらこれからも勉強を続けて行ってほしい。